

ダンスの指導における一考察(2)

— 指導者と学習者の言語より —

大島 敏
富田 美智代
三反崎 康子

〈研究目的〉

ダンスの指導における一考察⁽¹⁾では“引き出し”の言葉を含み指導言語が、学習をすすめる上で重要な役割を果たすと結論を得た。本研究では、更に小学校、中学校、高等学校を対象を広げ、それぞれ指導者と学習者の両者に視点をあて、指導言語と学習者の Verbal communication について分析検討し、あわせてその連関をみようとするものである。

〈研究方法・対象〉

指導言語・学習者の活動状況 } 収録・分類
学習者へのアンケート・感想 }
小・中・高校 各6時間 計18時間

〈結果と考察〉

指導過程(ねらいと流れ)・指導言語から指導者がどのような運びですすめているかについてまとめた。“流れ”は小学校(以下aと略す。中学校b, 高等学校c)は、話のすじから、b cでは運動からはいり、後半に“みせ合い”がある。

総語数とコミュニケーションパターンでは、指導言語を息の切れ目で分節して得た総語数の値と、総語数に対する w,g,i,s⁽²⁾の割合を求めると、a b c 共、wの値が非常に高い。

コミュニケーションパターン「ほめ言葉」「ほめる」は学習意欲を高める点において重要なことから、指導言語より抽出し、w g i でみると、cでは全てwに発せられている。説明時では「パーッと一杯とんでるからいいの」のように具体的に、表現時では「そう〜うまい」のように単発的なものと「とってもきれいに伸びてる人いるよ」のように全体の中で個人を意識させるような言葉で、特にaにおいては「○○さん、……」と個人になされている。b cとすすむにつれて「だいぶ移動できるようになった、ただ……」のように“ほめて次には……”のパターンが多くみられる。

指導過程における活動状況一図1—各時間の流れの中で下段を指導者、上段を学習者として両者の時間系列を示した。指導者が“動かそうとし”(引き出しを含む)学習者が“動いている”部分が、aではほぼ一致し、時間が比較的長い。b cでは前半にそ

れがみられ後半からの断片的な“まかせている”活動に“みせ合い”が続いている。

指導過程における指導条件の分類一図2—流れの中で、説明時・表現時に与えた条件の分布を示すものである。“ねらい”は2~5, その他の条件は7~10で“ねらい”より多い。全般的に指導者は、繰返し与える“ねらい”と、前半までに与え終わるその他の条件をかかわらせながらすすめている。下欄に示した数字より、学習者は“ねらい”“速度”“よい連続”の条件をとらえている。

図1. 指導過程における活動状況

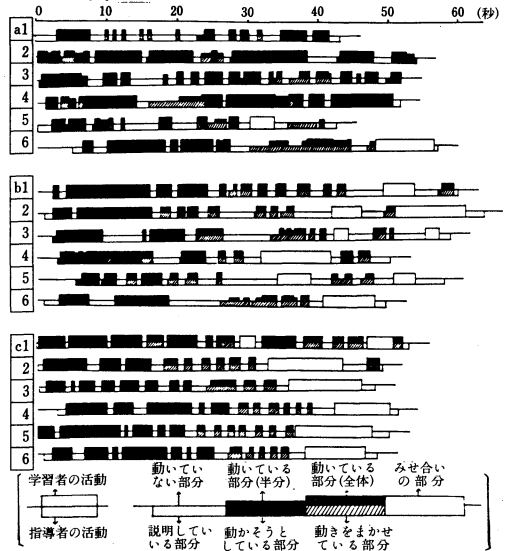
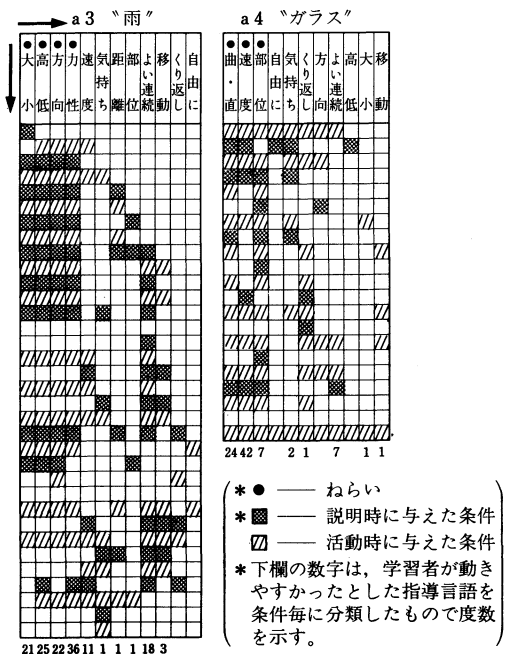


図2. 指導過程における指導条件の分類



指導言語「引き出しのことは」—表1(次頁) 指導言語において、学習者に気付かせたり選択させたりして、「動きを引き出している」言語を抽出し分類した。⁽³⁾ 表現的・非表現的ともに a は間接的が、c は直接的が多く、b では同じ言葉の繰返しが多い。内容的に b c では運動要因がみられる。

指導言語「深めのことは」—表2— 表現的又は非表現的な言葉で学習者に気付かせながら、より上手にすることを、「深めのことは」としてとらえ、抽出したものを要因で分類した。「深め」方には、1つの事柄を異なった要因で、あるいは、同じ要因を言葉をかえての2種類があった。

表2. 指導言語「深めのことは」

No.	何を	どのような言葉で	要因
a4	ガラスがとける	○火にかけるとどうなるかな—スロー—モーションでみましょう ○ドンドンたいてるよ グツグツグツグツグツグツ ○足あつない? 下からたいてるんだよ ○いつも同じ場所で ジー—かんばってくれたかな —ベター—とねてる人 それもう下へこげついたんかな ○ちようど給みたい ドロドロの給みたい ○グ—と自由伸びるわけてす ねばっこい	速度 よい連続 部位 移動 曲線・直線 力性
b2	縮む	○へその場所、関節 ○縮むには 曲がるところ全部曲げた方がいんでないかな— ○地面の中に吸いこまれてしまったようになったかな— 床の下へズ—とめりこんでいくような感じになったかな	部位 " " " " 気持ち "
b6	走る—振り返る	○顔だけの人もいるね 身体だけの人もいる グ—な—とこうう感じてふり返るかもわからんね ○ゆっくりふり返ってみましょう ジローリねジローリ ○走った! ビュッ—とまっすぐ走った! 止まった! ふり返った! またまっすぐ走った! 止まった! ふり返った!	部位 速度 " " " "
c3	かこむ	○どっかをかこむ ○かこむ! かこむ! かこむ! かこむ! かこむ! ゆくり だっかかこむ ○小さくかこむ だっかもう一ヶ所 ○かこむ! かこむ! かこみながら移動— ○ゆくり大きくかこむ 大きくかこむ 大きく大きく もって大きくかこめるよ— ○手なしてかこむかこむ 足でかこむ ○かこみながらジャンプかこむ! かこむ! かこんでジャンプかこ んで! かこんで! かこんで! ゆくり—かこんでしずむ—	方 速度 向 度 方 移 動 縮大・縮小 部 位 速 度 よい連続

指導言語と学習者の両者の連関をみようとする1つの方法として、a b c 各々1学級に「ダンス」についての自由記述を単元の初期段階に求め共通した項目を設定し、分類した。—表3—

表3. 自由記述の分類

	ダンス観	変容	実施内容	個人グループ	方法への評価	希望する事	その他	人数
小	26	29	33	7	7	11	5	40
中	25	45	24	9	8	—	4	47
高	40	46	21	15	19	4	16	51

共通に「ダンス観」「変容」「実施内容」に高い値を占め、特に b c は同様な傾向を示す。

「ダンス観」をさらに詳しくみるために、表4の項目を設定し分類した。

表4と自由記述で、a b c の「ダンス観」を概観すると、a は「体で・自由に・自分なりのこと

表4. 自由記述「ダンス観」の分類

	総数	体で表わす・方法	つくり出す	感じをこめる	自由な	動く	その他
小	51	25.5	13.7	19.6	11.8	23.5	5.9
中	46	26.1	26.1	10.9	4.3	32.6	—
高	86	13.9	25.6	23.3	5.8	19.8	11.6

を表わし・感じをこめて・汗をかく程動いて・表現の仕方を習っていくもの” b は「汗をだし・感じをこめて動くことを好み・身体で表わすことの理論をもちながら・つくることには楽しさと不満をもっているもの” c は「自己表出に対する是非・動くことの是非を持ち・イメージや感情を体で表現することを理解し・つくことに必要性を認めつつも苦手なもの」と言える。

「個人・グループ」(表3)では、「おもしろい、たのしい」の個人賛成・動きがかたくなる、まともななくてはいけない」のグループ否定が、個人否定・グループ賛成より多く、グループ指導に一考の余地があると思われる。

「方法への評価」(表3)の中で、指導言語について、a 1人、b 6人、c 7人がふれており、指導言語によって、「楽しく、動きやすくなった」「こう動いて!」のように命令的な言葉は「意欲を妨げる」など改めて指導言語のむずかしさを感じた。

- 以上より
- ほめ言葉は説明時・表現時共にみられ、又ほめ言葉を手がかり足がかりとして高めている。
 - 動きを深めるためには2つの方法がある。
 - 指導条件のねらいは、流れにおいて通され、その他の条件を含めながらねらいを達成しようとしている。
 - 引き出しの言葉は、小・中・高ともみられ、質的推移がある。これは指導のはいり方に影響されるのではないかと、と思われる。
 - 「ダンス」を意識では同様にとらえているが、「つくり出す」とか「感じをこめる」が、「精一杯動く」ことによってあまり負担にならないような小に対して、高は「動く」ことよりも、「つくり出す」「感じをこめる」に意識があり、それがかえって動きへの不安としてあらわれているようである。

今後、このような「ダンス観」をめどとして、指導における言語・流れ等をよりよくするために検討し、学習者にかえす必要がある。

注1. 高等学校の指導者を対象とし、その Verbal communication を手がかりとした研究

注2. 舞踊学 第3号 「ダンスの指導における一考察(1)」参考

注3. 同上

表2. 指導言語「引き出しのことば」

a	直 接 的	表 現 的	<ul style="list-style-type: none"> ○とんだりね とんでパーッととんでいったり ○たいこがなったら ビターッ! と止まる ○かくれる!又サーッと出てくる ○がんじょうピン! ○スタートゆっくりゆっくりゆっくり〜グーングーンだんだん… ○スイッチオン! グゥー あっあっあっあっ— 停電だ ○葉っぱだとファ〜とせずに コロコロコロッと おちるよ ○3階のところゴボゴボゴボ3階から下におちました ストーン ○ゆっ〜りさすさ〜す はやく! さす! さす! ○1枚目! 2枚目! …ろ〜く〜ま〜いめ〜し〜ち〜ま〜いめ ○ちがう方向でクシャクシャあっちでも クシャクシャこっちでも ○ドドロ ドロ〜破片!破片!ドドロ〜破片/破片! 	間 接 的
		非 表 現 的	<ul style="list-style-type: none"> ○足巾10センチ 広げて ○ジャンプして ひっくりかえってるのやら 横転してるのやら ○いろんな方向におしりのとげだよ ○ゆっ〜りのびてるのものもあるし あわてんぼのものもあるよ ○火は一緒に あがってきえて ガスの火かな ○大きなガラスのひびは 同じとこかな ○乱暴なガラスやさんもあるし やさしいガラスやさんもありますよ 	
b	直 接 的	表 現 的	<ul style="list-style-type: none"> ○パーン! てとびあがって コロコロコロって ころがる ○一辺に 大きくなるよ— のびる! ○ゆっ〜りのびて 速くパッ!と ちぢむ ○ゆっ〜りのびて— ホイッ! ○パッ! パパッ ○ゴボ〜 ドロドロ〜 ○パーン ス— パッパッパッパッ サッス— ○ジワ〜 好きな部分を ジワ〜 ○ファ〜 気持ちいいよ フカフカ〜 	間 接 的
		非 表 現 的	<ul style="list-style-type: none"> ○ゆっ〜りのびて もうこれ以上のびれなくてゆうほどのびて ○向き 180度 かえて ○あっちへいっても こっちへいっても 自分ののびる ちぢむ ○あついフライパンの上 走ってみよう ○頭のてっぺんから足の先まで ○極限まで ○目にも とまらぬ 速さで ○ときめきのポーズ 	
c	直 接 的	表 現 的	<ul style="list-style-type: none"> ○ねじって しぢむ もっとグーッと もっとねじってグーッと ○フワ〜と ういて〜カクカクカクカク パーッと走って パーパン ○パーパン しぢむ— ○フワ〜とのびた続きで ゆっ〜りねじって しぢんで〜 ○移動しながらサーとのびるよ—もっともっともっ ○グ—ッと ゆっ〜りしぢんで 次に パー!と いく ○ガッ!とねじることだってできると 思うのね ○ゆっ〜り フワ〜と ジャンプ ○パ〜パ〜パ〜ン ゆっ〜りゆっ〜りグーッととして パーパン! ○パッ! シュー パッ! シュー ○フワ〜ン パーパン! シュー カクカクカク! スー カクカクカク! タタタタタタタ パーパン! ○サ— ッと流れることだってあるかも しらんよ— 	間 接 的
		非 表 現 的	<ul style="list-style-type: none"> ○もう最高まで いったという人は しぢみはじめても いいよ— ○床から 30センチ位 あがろう ○ねころんだって 青空は表わせるかも しらんよ ○ゆううつな ジャンプ ○片方ずつ ずらしながら ○精一杯 天井 届くほどね ○何か のってるように ○春風 春風 誘われてるよ 顔も全部 ○冬の風とは ちがうよ そんなに重くないと思うね ○うくの 最高は 宇宙まで ○極端に 	